

倶知安町立倶知安小学校

道徳の時間での活用

小学校
第5学年

主題名 郷土や国を愛する心を 内容項目C〔伝統と文化の尊重、国や郷土を愛する態度〕
教材名 「あなたのふるさとをしようかいしましょう」(「私たちの道徳 小学校5・6年」P164-165)
「ホタルかがやく町、沼田」(北海道版道徳教材「はあと・ふる2 小学校用」⑥)
「私たちのふるさと」(「おもてなしハンドブック 小学校5・6年」P10)

1 本時のねらい

郷土の伝統と文化を大切にし、社会に尽くした先人や高齢者に畏敬の念を深め、進んで郷土の発展に努めようとする態度を育てる。

2 教材について

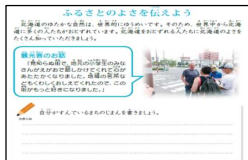
本教材は、自分の住む町のよさを整理したり、友達と交流しながら、新たなよさに気付いたりすることを通して、郷土への愛着や誇りを深めていけるように構成されている教材である。

- ① 家庭から出る排水や農薬のために川が汚れ、ホタルの姿が見られなくなった。
- ② 沼田町の人々には、昔のようにホタルが住めるきれいな自然を取り戻したいという願いがふくらんでいった。
- ③ 人々がその願いの実現に立ち上がり、ホタルの里づくりが始まった。
- ④ さらに、人々の清潔な町づくりに発展し、自然を取り戻していった。

「おもてなしハンドブック」を地域のよさなどについて考える場面で活用することにより、郷土のよさを守っていこうとする道徳的実践に結び付けることができるようにする。

3 本時の展開

過程	○発問等 (◎中心的な発問) ・子どもの反応	◆指導上の留意点 ◇評価
導入	○ 「倶知安町」の特色として思い浮かべられることは何ですか。 ・観光客 ・羊蹄山 ○ この写真(昔のクッチャン原野)はどこの写真ですか。 ・どこかの山の中かな。もしかして倶知安かな。	◆郷土のよさを想起できるよう、「私たちの道徳」P165「あなたのふるさとをしようかいしましょう」を活用する。
展開前半	○ 「ホタルがかがやく町、沼田」を読んで考えましょう。 ○ ホタルがいなくなって、町の人は、どのような気持ちだったのだろう。 ・このままでは虫も住めない町になる。 ・残念だ。 ○ 町の人は、どのような気持ちでホタルを取り戻す取組を行ったのだろう。 ・昔のようにホタルを見たい。 ・ホタルが輝く町を取り戻したい。 ◎ 町の人は、なぜホタルを取り戻したかったのだろう。 ・自分の住む町を大切にしたいから。 ・未来にきれいな町を残していきたいから。	◆ホタルを取り戻したい理由に気付くよう、沼田町の人々の行動の原動力について考えるよう促す。 ◇地域を守ることの大切さを考えている。(発言、記述内容)

展開後半	○ クッチャン原野の写真と今の倶知安町の写真を見比べてみましょう。今の倶知安町になるためにはどんなことがあったか想像してみましょう。 ・住んでいる人が自然を残そうと努力していた。 ・今まで倶知安のためにがんばってきた人がいたことなど考えたことがなかったな。 ○ 今日の授業を振り返り、「おもてなしハンドブック」P10に倶知安町のよさをまとめる。 ・地元の農家がつくる農作物がとてもおいしい。 ・自然が豊かで、どの季節もその季節ならではの楽しみ方ができる。	 <p>ふらさのよさを考えよう 倶知安町のよさを考えるには、昔のよさを思い出します。そのよさを、未来のよさに変えていこうと努力していきましょう。</p> <p>倶知安のよさ 倶知安のよさは、自然の恵みです。そのよさを、未来のよさに変えていこうと努力していきましょう。</p> <p>おもてなしハンドブック P10</p> <p>◇地域のよさやこれからの自分について考えている。(発言、記述内容)</p>
終末	○ 先生の話をお聞きしましょう。	◆道徳的実践に向けた意欲を高め、具体的な見通しをもつことができるよう、教師の体験に基づいた説話を行う。

4 授業の記録

- (1) 中心的な発問に対する子どもの反応
 - ・昔のような豊かな自然を取り戻し、ホタルが輝く町にしたい。
 - ・自分たちが生まれ育った町を大切にしたい。
 - ・未来の人たちに豊かな自然を残していきたい。
- (2) 振り返りでの子どもの反応
 - ・夏は、祭りがとてもにぎやかで、自然がたくさんある景色がきれい。
 - ・他の町にない雪質のよいスキー場があって、外国の人も多く住み、独特の文化がある。
 - ・倶知安の自然を守る優しい人々がいる。

5 板書、ノート等



<おもてなしハンドブックへの記述内容>

<効果的に写真を活用した板書>

実践のポイント

- 地域のよさについて考えを深めることができるよう、展開後半で「おもてなしハンドブック」を活用し、地域を訪れた人々に伝えたい地域のよさを書く活動を位置付ける。
- 進んで郷土の発展に努めようとする態度を育てることができるよう、地域の自然を守り育ててきた人々を取り上げるなど、教材を工夫する。

道徳の時間での活用

帯広市立帯広小学校

小学校
第5学年

主題名 礼儀は心のあらわれ **内容項目B** [礼儀]
教材名 「江戸しぐさに学ぼう」(「私たちの道徳 小学校5・6年」P58-59)
「礼儀正しくふるましましょう」(「おもてなしハンドブック 小学校5・6年」P2-5)

1 本時のねらい


時と場をわきまえて、礼儀正しく真心をもって、接しようとする態度を育てる。

2 教材について

本教材は、傘かしげ、肩ひき、こぶし腰浮かせ、おつとめしぐさといった「江戸しぐさ」の意味から、礼儀とは何かを考え、今に生きる現代しぐさとは何かを子ども自身が考えさせることのできる教材である。

「おもてなしハンドブック」を礼儀正しいふるまいなどについて考える場面で活用することにより、道徳的实践に結び付けることができるようにする。

3 本時の展開

過程	◎発問等(◎中心的な発問) ・子どもの反応	◆指導上の留意点 ◇評価
導入	<ul style="list-style-type: none"> ○ 4コマ漫画(雨の日に傘を差した人同士がすれ違いざまぶつかってしまい、ケンカになる内容)を見て話し合おう。 <ul style="list-style-type: none"> ・傘が当たるくらいで、ケンカしなくてもいいのに。 ○ 傘を差して、狭い場所ですれ違う場面を体験してみよう。 <ul style="list-style-type: none"> ・ケンカになる前にできることがある。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆子どもたちの素直な意見を引き出せるようにする。 ◆どのような会話をしているか想像させ、問題意識につなげる手段として、動作化を取り入れる。
展開前半	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「江戸しぐさに学ぼう」(「私たちの道徳 小学校5・6年」P58-59)を読んで話し合おう。 ○ 何のために、このようなしぐさをしているのでしょうか。 <ul style="list-style-type: none"> ・気持ちよくすれ違うため。 ・相手が嫌な思いをしなくて済むようにするため。 ・だれも見えていなくても役立つことをする心構え。 ○ 「江戸しぐさ」が生まれた理由を考えよう。 <ul style="list-style-type: none"> ・お互いに平和に暮らせるようにするため。 ・お天道様にはずかしくないように行動するため。 ・人のおかげで物事が成り立っていると考えるため。 ◎ 「江戸しぐさ」を通して、何を伝えているのでしょうか。 <ul style="list-style-type: none"> ・相手のことを考えて行動することを伝えている。 ・気遣いや思いやりを伝えている。 ・互いの感謝の気持ちを伝えている。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆挿絵を使いながら、しぐさの内容を確認する。 <div style="text-align: center;">  <p><「私たちの道徳」P58></p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ◆ノートに自分の考えをまとめ、その記述を基に、全体交流するよう促す。 ◇しぐさには心がともなうことについて、考えを深めて、ノートに書いている。(記述内容)

展開後半	<ul style="list-style-type: none"> ○ 自分や学級の礼儀やマナーについて振り返ってみよう。 <ul style="list-style-type: none"> ・先生のいる前ではちゃんとしているが、いない時はできていないことが多いので、いつでもできるようにしたい。 ・狭い場所で、友達と傘がぶつかってしまったことがあったので、すれ違う時は傘を傾けるようにしたい。 ○ 相手に心を伝える形に、他にはどのようなものがあるか、「おもてなしハンドブック」P4に書いてみよう。 	<ul style="list-style-type: none"> ◇昔から伝わってきた礼儀作法が今の社会でも実践できることに気づき、自分を振り返り、様々な場面で進んで行動に表そうとしている。(発言、記述内容)
終末	<ul style="list-style-type: none"> ○ 先生の話をお聞きしましょう。 ○ 今日の学習の感想を、道徳ノートにまとめましょう。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆道徳的实践に向けた意欲を高め、具体的な見通しをもつことができるよう、教師の体験に基づいた説話を行う。

4 授業の記録

(1) 「おもてなしハンドブック」P4への記述

- ・給食の後片付けで食缶を運んでいる時に、通路をよけてくれた人がいた。
- ・相手が話しているときは、話しかけずに最後までしっかり聞いている人がいた。

(2) 「道徳ノート」への記述

- ・今までは、礼儀とは何なのか分からなかったし、考えたこともなかったけれど、この学習を通して、礼儀はみんなも自分も気持ちよくなるものだと分かった。
- ・今日の学習で、礼儀とは、人と人とのコミュニケーションとして大事なものであり、相手を尊敬する気持ちが大切だと思った。

5 板書、ノート等



<「おもてなしハンドブック」P4>



<思考の流れに沿ってまとめられた板書>

実践のポイント

- 礼儀についての考えを深めることができるよう、展開後半で「おもてなしハンドブック」を活用し、正しいふるまいだと感じたことを振り返って、書く活動を位置付ける。
- 礼儀正しく真心をもって接しようとする態度を育てることができるよう、「江戸しぐさ」の行為の背景などを問う発問を位置付ける。

道徳の時間での活用

木古内町立木古内小学校

小学校
第5学年

主題名 思いやりの心 内容項目B〔親切、思いやり〕
教材名 「最後のおくり物」(「私たちの道徳 小学校5・6年」P66-69)
「思いやり」(「おもてなしハンドブック 小学校5・6年」P6-9)

1 本時のねらい

誰に対しても思いやりの心を持ち、相手の立場に立って親切にしようとする態度を育てる。


2 教材について


本教材は、誰に対しても思いやりの心をもって接するためには、相手の立場や状況によって、相手の望んでいる対応が異なることにも気付かせることのできる教材である。

- ① 俳優になることを夢にもつロベータは、養成所に通う金銭的な余裕はなかった。ある朝、ドアの下に月謝と手紙が入った封筒を見付け、養成所へ通うことができるようになった。
- ② その封筒は、アパートの守衛ジョルジュが置いていったものであった。
- ③ その後、ジョルジュが体をこわし、しばらくの間封筒が置かれなくなったため、養成所への月謝が払えなくなった。
- ④ ジョルジュが息を引き取った夜、ロベータは最後の手紙を読み、ジョルジュの温かい思いやりに気付くことができた。

「おもてなしハンドブック」を思いやりの心を伝える具体的な行動などについて考える場面で活用することにより、道徳的实践に結び付けることができるようにする。

3 本時の展開

過程	○発問等(◎中心発問) ・子どもの反応	◆指導上の留意点 ◇評価
導入	○ 今まで、誰かに親切にしたことや親切にされたことはありますか。 ・忘れ物をした友達に消しゴムを貸してあげた。 ・道に迷っている人に道を案内してあげた。	◆本時のねらいに迫ることができるよう、主題につながる経験を取り上げる。
展開前半	○ 資料「最後のおくり物」(「私たちの道徳」P66-69)を読んで考えましょう。 ○ もしあなたがロベータなら、ジョルジュじいさんが倒れたとき、仕事を休んで付き添いますか。また、それはどうしてですか。 ・付き添う。自分のために、お金を届けてくれていたジョルジュじいさんに恩返しをしたいから。 ・付き添わない。仕事を休めばジョルジュじいさんも応援してくれていた俳優になる夢をあきらめることになるから。 ◎ ジョルジュじいさんからの「最後の手紙」をもう一度読んだロベータは、どのようなことを考えましたか。 ・ジョルジュじいさんは、体調を崩していたのに、ずっと僕のことを考えてくれていた。 ・ジョルジュじいさんは、ぼくの「俳優になりたい」という夢を心から分かってくれていた。	◆ロベータの行動や気持ちを自分事として考えられるよう促す。  ＜授業の様子＞

展開後半	○ 「おもてなしハンドブック」P8の書き込み欄に、車いすに乗ったお年寄りが後ろからやってきました。エレベーターに乗るようです。あなたならどのような行動をするか考えよう。 ・何階に行きたいのか尋ね、ボタンを押す。 ・「お先にどうぞ」と言って先に乗せてあげる。 ○ 思いやりの心を伝えるとき、大切なことは何ですか。 ・どうすれば相手のためになるか考えること。 ・相手が何を必要としているかを考えること。	 ＜「おもてなしハンドブック」P8＞ ◇相手の立場に立って思いやりの心を伝えることの大切さについて考えている。(発言、記述内容)
終末	○ 先生の話をお聞きしましょう。	◆道徳的实践に向けた意欲を高め、具体的な見通しをもつことができるよう、教師の体験に基づいた説話を行う。

4 授業の記録

- (1) 中心的な発問に対する子どもの反応
 - ・ジョルジュじいさんは、命を落とすほどつらい状況の中で、自分のことを考えてくれていた。
 - ・ジョルジュじいさんは、ぼくの「俳優になりたい」という夢を心から分かってくれていた。
 - ・ぼくの夢を応援している気持ちを、だまってお金を届けることで伝えてくれた。
- (2) 振り返りでの子どもの反応
 - ・今までは、相手のことをあまり考えていなかった。相手の思いを理解することは大切だと分かった。
 - ・相手の立場に立って行動することは大切だと思った。
 - ・相手の思いを理解して、言葉や態度で表したい。

5 板書、ノート等

「こんな時どうしますか?」②

「車いすに乗ったお年寄りが後ろからやってきました。エレベーターに乗るようです。」



あなたならどのような行動をしますか。自分の考えを書きましょう。

ドアがしまらないようにボタンをおしたり、何階か聞いていたりして手伝います。

相手の立場に立った思いやりの心とは?

☆ジョルジュじいさんからの「最後の手紙」を読んだロベータの気持ち
・こんな状態でも僕のことをこんなにも考えてくれたんだ。
・こんなにも、僕が俳優になることを願ってしてくれたんだ。

☆車いすに乗ったお年寄りがエレベーターに乗るようです。あなたなら、どうしますか。

☆思いやりの心を伝えるとき、大切なこと
・相手の気持ちを考える
・どうすれば相手のためになるか考える
・相手が何を必要としているのか考える
・自分の思いや考えを言動で表す。

行動
ボタンを押してあげる

表情
明るい笑顔で

言葉
やさしい言葉遣いで

＜おもてなしハンドブックへの記述内容＞

＜思考の流れに沿った効果的な板書＞

実践のポイント

- 思いやりについての考えを深めることができるよう、展開後半で「おもてなしハンドブック」を活用し、日常生活における行動等を考える機会を位置付ける。
- 相手の立場に立って親切にしようとする態度を育てることができるよう、「もし自分だったらどうするか」など、自分事として考える場面を位置付ける。

名寄市立名寄小学校

家庭や地域との連携による活用（道徳の時間）

小学校
第6学年

主題名 町おこし 内容項目C〔伝統と文化の尊重、国や郷土を愛する態度〕
教材名 「町おこしプラン」（光文書院 小学道徳6年「ゆたかな心」P46-49）
「私たちのふるさと」（「おもてなしハンドブック 小学校5・6年」P10-12）

1 本時のねらい

地域の伝統と文化を大切にし、先人の努力を知り、地域の伝統や文化を育てていこうとする態度を育てる。


2 教材について

本教材は、正子たちが、「町おこしプラン」を考えることをとおして、自分たちが住んでいる町や地域のよさ、特色について気が付き、自分たちのふるさとをよりよくしていこうとする気持ちをもつようになる様子を描いた教材である。

- ① 正子は、父から依頼された「町おこしプラン」のアイデアを学校の友達と考えた。
- ② 話し合いの中で、自分たちの町の特色をあまり知らないことに気付き、町のよさを調べた。
- ③ アイデアを考えるを通して、以前よりも自分たちの町のことが分かるようになり、愛着がわくようになった。

「おもてなしハンドブック」を事前に保護者と地域のよさについて話し合ったことを交流する場面で活用することにより、地域のよさを考えようとする意欲を高めることができるようにする。

3 本時の展開

過程	○発問等（◎中心的な発問）□主な活動 ・子どもの反応	◆指導上の留意点 ◇評価
事前の活動	<p>□ 学級通信によって、次回の参観日での道徳の時間に読み物資料「町おこしプラン」を活用して、私たちのふるさとに関する学習を行うことを家庭に伝え、学習への理解と協力を依頼する。</p> <p>□ 子どもは、家庭で「おもてなしハンドブック」P10に、家族と一緒に、「自分の住んでいる町のよさ」について書き込み、自分が生まれ育った地域について考える。</p>	 <p>＜「おもてなしハンドブック」P10＞</p>
本時導入	<p>○ 「おもてなしハンドブック」P10に書き込んだ自分たちが住んでいる町のよさについて交流しよう。</p>	<p>◆子どもが考えた「自分たちの町のよさ」を一覧表にして黒板に掲示する。</p>
展開前半	<p>○ 「町おこしプラン」を範読する。</p> <p>○ 正子たちはなぜ「アニメフェスタ」を「町おこしプラン」に提案しなかったのだろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「町の特徴」を打ち出していないから。 ・一部の人にしか楽しめないから。 <p>◎ 「町おこしプラン」を提案するときに大切なことは何だろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分たちが住んでいる町の産業や歴史について知る。 ・自分たちの町をよりよくしていこうとする気持ちをもつ。 	<p>◆静かに語りかけ、資料の世界に浸ることができるように範読する。</p>

展開後半	<p>○ 「おもてなしハンドブック」P10の「あなたが地域のためにできることを書きましょう」に自分の考えをまとめ、交流しましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・町のよさをたくさん知って、多くの人に伝えていくこと。 ・住みやすい町になるようにゴミ拾いなどを行うこと。 	<p>◇自分たちが住んでいる地域のよさや特色を理解し、自分たちの町をよりよくしていこうと考えることの大切さに気付いている。（発言、記述内容）</p>
終末	<p>○ 今日の学習について自分の考えをワークシートにまとめましょう。</p> <p>○ 先生のお話を聞きましょう。</p>	<p>◆学習を通して考えたことや新たに分かったことを書くことを伝える。</p>
事後の活動	<p>□ 学級通信で授業後の保護者と子どもの感想を紹介するとともに、家庭でもう一度、自分たちが住んでいる町のよさについて考えるように働きかける。</p>	

4 授業の記録

(1) 中心的な発問に対する子どもたちの反応

- ・自分たちが住んでいる町のことをたくさん知り、その中からよいところを見付けるようにすることが大切だと思う。
- ・他の町に住んでいる人たちに知ってもらいたいところを紹介することが大切だと思う。
- ・小さい子やお年寄りなど、たくさんの人たちの気持ちを考えることが大切だと思う。

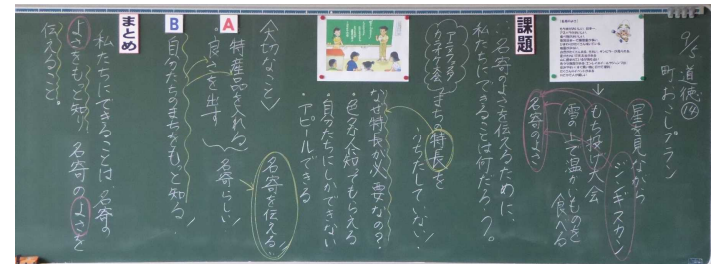
(2) 授業参観後の保護者からの感想

- ・町をよりよくしようとすることは大人でも難しいことだと感じました。もう一度、子どもとこのテーマで話し合ってみたいと思いました。
- ・自分たちの町をよりよくするために何ができるのかを真剣に考える姿から、子どもの成長を感じました。

5 板書、ノート等



＜「おもてなしハンドブック」P10＞



＜児童の思考の流れに沿った板書＞

実践のポイント

- 地域のよさについて考えようとする意欲を高めることができるよう、事前に家庭で「おもてなしハンドブック」を活用し、家庭で地域について話し合う機会を位置付けるよう働きかける。
- 地域の伝統や文化を伝承していこうとする態度を育てることができるよう、授業における児童の考えを学級通信等で紹介し、保護者の理解と協力を得る。

外国語活動での活用

中標津町立計根別学園小学部

小学校
第6学年

単元名 「Lesson4 Turn right.」

教材名 「思いやり」 (「おもてなしハンドブック 小学校5・6年」P6-9)

1 単元の目標



友達を道案内する活動を通して、積極的に道を探ねたり、相手の立場に立って道案内したりしようとする態度を育てる。


2 単元について

本単元は、友達を道案内する活動を通して、様々な建物の英語での言い方と、日本語の言い方を比較しながら口に出すことで、英語での建物の言い方には、児童の聞き慣れたものや初めて聞くものがあることに気付かせ、様々なアクティビティーを通して繰り返し聞いたり言ったりすることにより、自然に慣れ親しむことができるような単元である。

「おもてなしハンドブック」を困っている人に対してどのように接するかを考える場面で活用することにより、相手意識をもって行動しようとする道徳的実践に結び付けることができるようにする。

3 本時の展開

過程	□主な学習活動 ・子どもの反応	◆指導上の留意点 ◇評価
導入	<input type="checkbox"/> 道に迷って困っている外国の人を見かけたらどうするかを考え、「おもてなしハンドブック」P7 の書き込み欄に記入する。 ・声をかけて、教えてあげる。 ・一緒に歩いて連れて行ってあげる。 <input type="checkbox"/> 単元の目標を確認する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 5px auto;">英語で道案内をしよう！</div>	 <おもてなしハンドブック P7> ◆相手意識をもって取り組むことができるよう、具体的な場面を想定する。
展開	<input type="checkbox"/> What's this?ゲームをする。 建物の絵カードの一部からそれが何かを答えることで英語での建物の言い方を知る。 park/school/flower shop/hospital/bookstore restaurant/supermarket/fire station police station/convenience store/department store post office/station etc... ・日本語と似ているものがあるね。 ・日本語とは全然違うね。	◇英語と日本語とでは、建物の表し方が違うことに気付いている。(発言) 【言語や文化】  <授業の様子>

	<input type="checkbox"/> 目的地に道案内する言い方を聞いたり、言ったりする。 ・サイモンセズゲームをする。 Go straight/Turn right/Turn left/Stop	
終末	<input type="checkbox"/> 「思いやりの心を伝えましょう」(「おもてなしハンドブック」P6)を活用し、大切にしたいことを振り返る。 <input type="checkbox"/> 次回の学習内容を伝える。	 <おもてなしハンドブック P6>

4 授業の記録

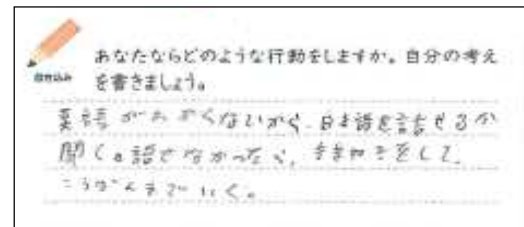
(1) 「おもてなしハンドブック」P7への記述

- ・説明したい言葉が分からない時は、身ぶり手ぶりで伝えるようにしたいし、なんとか気持ちを伝えたい。
- ・何もせずそのままにするのではなく、自分から話しかけて助けてい。
- ・困っていると思うからひとりぼっちにしない。見て見ぬふりをしない。

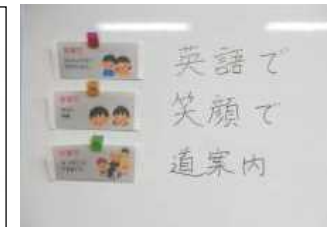
(2) 振り返りでの子どもの反応

- ・もし道に迷った人がいたら親切にしたいし、そういう気持ちで英語の言い方に挑戦したい。
- ・建物の言い方が英語と日本語で同じものもあったから、その言葉を使いながら道案内したい。
- ・言葉も大切だけれど、表情や態度も大切にしたい。

5 板書、ノート等



<おもてなしハンドブックへの記述内容>



<ホワイトボードに記入した内容の一部>

実践のポイント

- コミュニケーションを図ることの大切さを感じることができるよう、終末で「おもてなしハンドブック」を活用し、思いやりの心について考える場面を位置付ける。
- 日本人としての自覚をもって、世界の人々と親善に努めようとする気持ちが高まるよう、体験的に理解したことを「おもてなしハンドブック」に書く活動を位置付ける。